



杉林からの木漏れ日を浴び静かに構える

Oshu Heritage

奥州遺産

No. 25

〜ときを越え
受け継がれるもの〜

八幡神社

胆沢区小山字八幡堂

胆沢区徳岡にある「くらしの館・伝承館」の西に、ひとときわ高く生い茂る杉林が見える。地元では八幡様と呼ばれ、長きにわたり親しまれてきた八幡神社は、その杉林の中に佇む。小山村の村社で、本殿と棟札は県指定の文化財とされている。

平安時代に藤原清衡から社領が寄進され、その後、藤原秀衡が焼失していた社殿を再建したと伝わる。現本殿は江戸時代初期に領主の武田五郎左衛門が八幡社を勧請し、延宝5年（1677年）に再興したもの。江戸時代前期の建築物として貴重な遺構である。

寛政の百姓一揆を題材とした平成元年の胆沢町民劇場「枀」では、農民が八幡神社に集結し、神に祈願する姿が演じられた。

古くから多くの人たちに崇拝されてきた八幡神は、今も変わらず地域を見守り続ける。

広告